

---

# 【忠犬side】愛しているのは貴方【東方百合でナズ星ナズ】

双犬 『Orthros』

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

【忠犬side】愛しているのは貴方【東方百合でナズ星ナズ】

### 【Nコード】

N2661BA

### 【作者名】

双犬『Orthros』

### 【あらすじ】

タイトル通り東方の百合物で、カプはナズ寅ナズとなっております。あとこれは以前mixiに上げた物に加筆、修正した物です。

## (前書き)

お初でー！ー！ー！す。忠犬『ENEMY』と言いまー！ー！ー！す。  
口調が人を小馬鹿にしたような口調なのはすいませんが許して下さい。  
い。

いつもの口調にしたら先輩(番犬)と同じになっちまうんですもん  
.....。

以下、警告。

この中ではナズは上司に言われて寅丸の下にいる事になってます。  
いろんな所の設定がカオス。

あと百合ってます。

作者妄想乙ー！ー！ー！な所が多々あります。

設定がむちゃくちゃ過ぎて全世界が泣いた。

理由：原作プレイしてません。

でも俺はナズ星大好き。

誤字脱字いっぱいあるよ。

文章とか訳がわからなくても怒らないで下さい。未熟なのは死に  
たくなるぐらいわかってるんで。

でもナズ星大好き。

それでもヨロシという心優しい方はどうぞご覧になって下さい。



「……………ご主人を、貴方を見捨てて、違つ任に就く事になるかも  
しれません」

「……………!!!!!!?????????」

「この間、上役の方から指示が下りました」

「し、指示?」

「簡単に言えば、今私が就いている任を解くという内容です。

一度帰還するようにと書かれていました。

帰れば、二度とこちらに戻ってくる事は出来ないと思います」

「……………」

「ただ、これに強制力はありません。私の意思一つで断る事だつて  
出来ます。」

「……………ご主人。なんで私がこんな事を言っているのか、お  
わかりにな」

ぎゅっ

「ご、ご主人……………!!!!!!?????????」

「……………どうか、どうか私の側を離れないで下さい。

ナズー」

「ご主人……………」

「今までよりもっと勉強します。今までよりもっともしっかり  
します。今までよりもっともっともっとと宝塔を無くしません。

だから……………だから」

「……………そんな事、どうだっていいんです。

宝塔だつて無くしても構いません。私が探しに行けばいいだけなん  
ですから。」

「しっかりしてもらつたら今度は貴方は私を頼ってくれなくなつちゃ  
うじゃないですか。」

勉強は……………まあちょっとはして下さい。私がちゃんと教えてあげます」

「じゃ、じゃあなんでこんな事を……………」  
「……………昨日、村の男性ととっつっつっても仲良さそうに話をしていました」

「え?????……………まあ、大根やトマトが沢山採れたという事なので、少しばかりおすそ分けを貰いました」

「その時です!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!その人となにかすっごく楽しそうに話していたじゃないですか!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「へ?????????ええー……………とー……………」

「ええ、ええ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!ご主人が他の誰と仲良く話そうが私には関係ありませんとも!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「ナ、ナズー?????????……………」  
「でも私がいる前であんなに笑顔にならなくなっただっていいじゃないですか!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

あ!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!  
「……………」

「ナズー……………」  
「お、おかしな事を言っているというのはわかっています。

でも、でも他の誰かに笑ってるご主人を見てたら胸が……………心が苦しくなってきました!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

「ナズー」  
「わ、訳がわからなくなってきました!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

この手紙が来て、離れたらこんな苦しい想いをしなくて済むと思っ……………

て!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!  
そう思ったら、もっともっともっ胸が苦しくなっ……………

!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!  
「……………ナズー、どうか泣かないで下さい。  
はい、ハンカチ」

「ひつく、えつく、うく、ひつく……………」。

「あ、ありがとうございます……………」

「私は、あなたに一つだけどうしても聞きたい事があるのです」

「うつく……………」え？」

「どうして、貴方は私と一緒にいてくれるのですか？」

私は一度おちこぼれの烙印を押され、その時からたいした成長は…

……………残念ながら出来なかったと自分では思っています。

いくら上からの命令とはいえ、私のような出来損ないの世話を焼くというのは途方もない労力と精神力が必要だったはず。

……………どうして……………貴方は……………」

「貴方一人だけだったんです。私に、優しく接してくれたのは」

……………」

「私は幼い頃から天才と呼ばれ、同い年が学ぶ物よりさらに高度な物を頭に叩き込まれてきました。」

皆が遊んでいる頃にただ一人重い任を任せられ、周りの過剰なまでの期待に応え続ける。

生きる意味すらわからなくなっていくその人生に、私はほとんど疲れてしまっていたんです」

……………」

「そんな時ですよ、貴方に会ったのは。」

最初は一体どこの偉い奴の子供かと思いましたが。身なりがよくてあんなどんくさい人、そんな奴の子供でもなければなかないませんか

「酷い言いようですね」

「まあ昔の話ですから、どうか許して下さい。」

実際貴方は偉い奴の子供で、何もしなくても良い役職につけるような、そんな方でした。

そんな姿を見ながら私は『あんな奴の下でなんか働きたくない。いや、むしろあいつを私の下で働かせてさんざんこき使ってやる』…

……………そう思っていたんです」

「ナズーの方が重要な役職にあっていると私は思います！……！！！！私なんかより全然凄いですし！！！！！！！！！！」

「そう言っただけで嬉しすぎるのでは？　話はまだ最後まで終わっていません。」

「……で、それから数日後、また貴方は私を通り過ぎて行きました。」

他の奴らは私に見向きもしません。

いくら私が天才とはいえ、地位は奴らの方が上でしたから。

「……でも貴方は、貴方だけは違った。」

通り過ぎた後、わざわざこっちに戻ってきて私に言ったんですよ。

『あなたは凄い。数日前にもここで姿を見かけた。』

あなたはとつても頑張り屋さんだ………ってね。

その時私は、『他の下は絶対に嫌だけど、こいつの下だったら別にいいかな』って、思わず思ってしまったんです」

「ええ………つと、ごめんなさい、どうにも記憶が飛んでるみたいで………」

「別に構いません。貴方はすぐに駆け出してしまいましたし、話した時間もとても短かったですから。」

「……やがて時は流れ、私に新しい任務が下りました。」

もちろんあの時思っていた『誰かの下でなんか働きたくない』という思いは健在でしたから、すぐにお断りするはずでした。

「……そして顔合わせの日、目の前にいたのが貴方だったんです。」

前に見た時よりずっとずっと成長してただけど、初めて出会った時のその優しさが全く変わっていなかった事に、私は驚きと喜びを感じました。

「……私は、そんな貴方だからこそ、貴方と共にいようと誓えたのです」

「でも………私はおちこぼれで………」

「他の馬鹿野郎共の評価なんて、私にとってみればどうでも良い話。」



いくら考えてみても、貴方以外の誰かの下につくというのはまっぴらごめんです」

「でも、なんでそれが今こんな事に……………」  
「……………」 貴方と長い間一緒にいる内に、私が貴方の側にいる事がいつのまにか当たり前になってしまったんです。

貴方の姿が見えない時は何かあったのだろうかと不安で不安で、胸が痛いほど苦しくなりますし、逆に貴方が側にいると鼓動がおかしくなっていて、なのに側から離れたくないと思うようになってしまっ

……………」  
「ええ……………」 と、それはもしかすると……………」

……………」  
「わかるのですか!!!!!!?????」

「前に門番さんが話しているのを聞いたんです。  
すつつつぐく、言いにくいんですけど……………」。

それは多分、恋煩いだと思います」

「恋……………」 煩い？」

「誰かを想って苦しくなったり、嬉しくなったりするらしいです。  
恋煩いというのは。」

門番さんも、恋煩いはいろいろ大変だって言っていました」

「恋煩い……………」 恋……………」 この気持ち

が……………」 恋……………」



「いいんです。貴方が想った事を言ってもらって。  
.....たとえどんな答えでも、愛する貴方の言う事なら私は全部受け入れ」

「じゃあ、大好きですよ、ナズー」

「な!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!突然何を!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」  
「いや、だって想った事を言つてと言つたではないですか。ナズーが」

「そ、それはそうですけど!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!」

私の大好きは、ええと、その」

「.....フフツ、大丈夫ですよ。」

貴方の大好きと、私の大好きはおなじです」

「ご主人.....」

「私も、貴方の姿が見えないと一生懸命探してしまいますし、貴方が側にいてくれれば、私は他には何もいません。」

.....本当は、私の方が先に言つてしまおうかと思つていたんですよ？

でも、私は今の関係が全て壊れてしまふんじゃないかと思つてしまつて.....」

「こ、壊れる訳無いじゃないですか。」

私だって、貴方なら事大好きなんですから」

「じゃあ、お互い両想いだったんですね、ナズー」

「.....はい」



「では、いただきます／＼／＼／」

「ご主人、どうして貴方は、私を好きになつたんですか？」

「好きに理由なんか必要ですか？」

「いえ、ただ…………… やっぱり知りたいなあって」

「…………… フフ  
ツ、教えてあげませんよーだ」

「あ、ズルいです！……………！ 私はちゃんと言つたのに……………！  
……………！……………！」

「まあその内教えてあげますよ、その内にね」

「その内っていつなんですかご主人……………！……………！……………！」

なんとなく、言いたくなかつた。

本当は出逢つたその瞬間に一目惚れして。

その日から一時も忘れた事が無かつたなんて。

なんか、気恥ずかしくて言えないや。

「だーかーらーその内ですって！……！……！……！」

「だーかーらーいつですかその内って！……！……！……！」

「そんな我が俵言っ子にはまたお仕置きしちゃいますよー！？」

「……………」

「……………」

「あらあら、真っ赤になっちゃって。

可愛いんですからぁナズーは」

まあ、こうして障害は無くなったのだ。

私の物語などいつでも話す事ができる。その時に言えばいい。

どうかずっと、ナズーリンと一緒にいられますように。

私は、流れ逝く一筋の流れ星に、そう願いをかけた。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2661ba/>

---

【忠犬side】愛しているのは貴方【東方百合でナズ星ナズ】

2012年1月6日20時45分発行